令和８年度

全国学力・学習状況調査報告書

令 和 ８ 年 １ ０ 月

当 別 町 教 育 委 員 会

目　　次

Ⅰ　調査について　　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

Ⅱ　学力調査の状況　　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2
　１）教科ごとの平均正答率と平均正答数
　２）全国平均を基準(100)とした場合の領域ごとの正答率と無解答率
　３）正答率 30%以下の児童生徒の割合
　４）全国平均正答率との差（経年変化）
　５）結果概要

Ⅲ　学習状況調査（児童生徒質問調査・学校質問調査）の状況　　・・・・・・・・　4
　１）基本的生活習慣等に関すること
　２）家庭学習等に関すること
　３）ウェルビーイングの向上に関すること（挑戦心、、自己有用感、幸福感等）
　４）授業改善等に関すること

Ⅳ　令和９年度当別町学力向上プラン　　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　13

Ⅰ　調査について

1　目的

（１）義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

（２）学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

（３）以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2　対象学年

（１）小学校（義務教育学校）第６学年

（２）中学校第３学年（義務教育学校第９学年）

3　内容

（１）教科に関する調査

対象教科	小学校調査：国語、算数 中学校調査：国語、数学、英語（４技能） ※中学校調査「英語」のみ、文部科学省 CBT システム（MEXCBT）によるオンライン方式により実施
出題範囲	原則として、調査する前年の前学年までに含まれる指導事項
出題内容	①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識、技能等 ②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等 調査問題では、①と②を一体的に問う

（２）生活習慣や学習環境等に関する質問調査

児童生徒に対する調査	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
学校質問調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

4　期日

教科に関する調査	令和８年４月２３日（木）　※中学校調査「英語」を除く
中学校調査「英語」	令和８年４月２１日（火）～４月２３日（木）聞くこと・読むこと・書くこと 令和８年４月３０日（木）話すこと
児童質問調査（小学校）	令和８年４月２４日（金）～４月２７日（月）
生徒質問調査（中学校）	令和８年４月２１日（火）～４月２３日（木）
学校質問調査	令和８年４月１日（水）～４月１７日（金）

5　実施した学校及び児童生徒数

	対象学校数	対象児童生徒数	参加児童生徒数	参加率
小 学 校 （義務教育学校前期課程を含む）	２校	８５人	７６人	８９．４％
中 学 校 （義務教育学校後期課程を含む）	２校	９６人	８３人	８６．５％
合　　計	４校	１８１人	１５９人	８７．８％

※参加児童生徒数は、対象となる児童生徒数のうち、当日体調不良等により参加できなかった児童生徒を除いた人数。

Ⅱ　学力調査の状況

1　教科ごとの平均正答率・平均ＩＲＴスコア・平均正答数

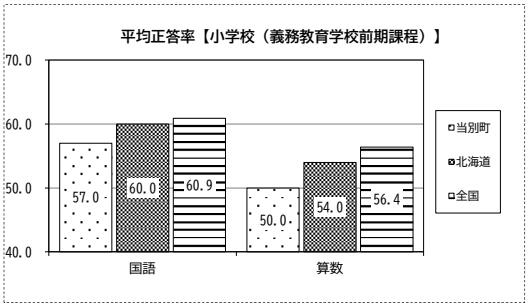
（1）小学校（義務教育学校前期課程）

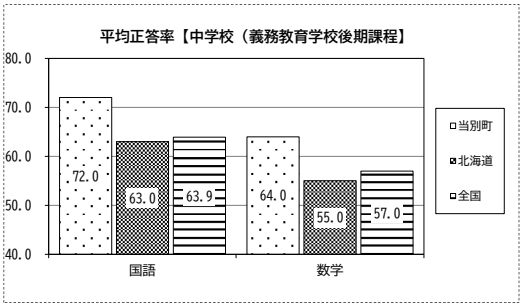
	国語							算数						
	平均正答率（%）	平均正答数/問題数	評価の観点ごとの平均正答率（%）		問題形式ごとの平均正答率（%）			平均正答率（%）	平均正答数/問題数	評価の観点ごとの平均正答率（%）		問題形式ごとの平均正答率（%）		
			知識・技能	思考・判断・表現	選択式	短答式	記述式			知識・技能	思考・判断・表現	選択式	短答式	記述式
当別町	**57.0**	**7.4/13**	**58.3**	**55.8**	**58.8**	**53.3**	**52.6**	**50.0**	**8.1/16**	**54.8**	**37.5**	**47.9**	**55.1**	**42.5**
北海道	60.0	7.8/13	60.9	58.5	60.4	62.3	53.4	54.0	8.6/16	57.4	42.5	54.4	56.6	44.5
全国	60.9	7.9/13	62.0	60.1	61.9	62.6	54.9	56.4	9.0/16	60.1	45.4	56.0	59.7	48.5
全国との差	▲ 3.9	▲ 0.5	▲ 3.7	▲ 4.3	▲ 3.1	▲ 9.3	▲ 2.3	▲ 6.4	▲ 0.9	▲ 5.3	▲ 7.9	▲ 8.1	▲ 4.6	▲ 6.0

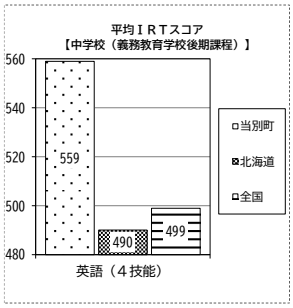
（2）中学校（義務教育学校後期課程）

	国語							数学							英語（4技能）							
	平均正答率（%）	平均正答数/問題数	評価の観点ごとの平均正答率（%）		問題形式ごとの平均正答率（%）			平均正答率（%）	平均正答数/問題数	評価の観点ごとの平均正答率（%）		問題形式ごとの平均正答率（%）			平均ＩＲＴスコア	平均正答数/問題数	評価の観点ごとの平均正答率（%）		問題形式ごとの平均正答率（%）		
			知識・技能	思考・判断・表現	選択式	短答式	記述式			知識・技能	思考・判断・表現	選択式	短答式	記述式			知識・技能	思考・判断・表現	選択式	短答式	記述式
当別町	**72.0**	**10.8/15**	**71.3**	**72.2**	**78.0**	**67.1**	**57.8**	**64.0**	**10.3/16**	**69.9**	**47.6**	**61.0**	**72.8**	**47.6**	**559**	**5.6/9**	**65.5**	**61.9**	**71.2**	**61.7**	**53.6**
北海道	63.0	9.5/15	63.1	63.4	71.8	55.5	45.5	55.0	8.8/16	60.9	37.3	58.0	61.8	37.3	490	4.2/9	46.5	46.7	60.1	39.6	34.1
全国	63.9	9.6/15	64.2	63.7	72.7	55.8	45.5	57.0	9.1/16	63.0	39.1	59.3	64.2	39.1	499	4.5/9	49.6	48.9	61.4	43.9	37.0
全国との差	＋ 8.1	＋ 1.2	＋ 7.1	＋ 8.5	＋ 5.3	＋ 11.3	＋ 12.3	＋ 7.0	＋ 1.2	＋ 6.9	＋ 8.5	＋ 1.7	＋ 8.6	＋ 8.5	＋ 60.0	＋ 1.0	＋ 15.9	＋ 13.0	＋ 9.8	＋ 17.8	＋ 16.6

※英語（４技能）はＣＢＴで実施し、平均ＩＲＴスコアで結果を表示。
※公開問題のうち全員に共通して出題される９問の集計値を掲載
※平均正答率・平均正答数・平均ＩＲＴスコアは、国から提供されたデータによる。
※平均正答率･･･平均正答数を百分率で表示。国語、算数ごとの平均正答率は、それぞれの平均正答数を設問数で割った値の百分率（概数）。
※ＩＲＴスコア…ＩＲＴ（項目反応理論）に基づき、各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すもの。
※平均正答数と問題数欄は分子が平均正答数で、分母が問題数として記載。







2　全国平均を基準(100)とした場合の領域ごとの正答率と無解答率

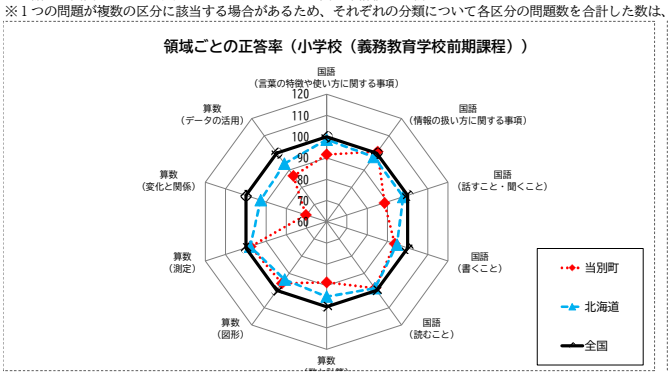
（1）小学校（義務教育学校前期課程）

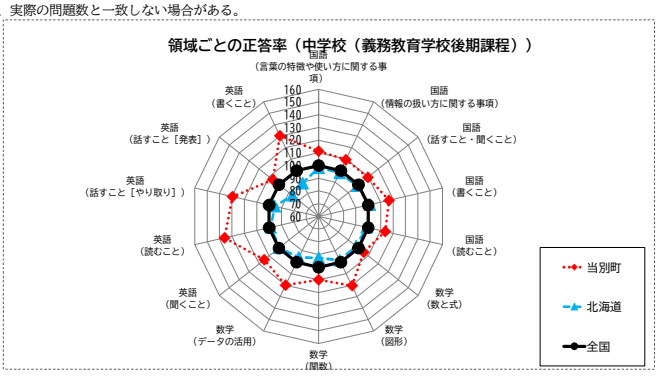
		国語（言葉の特徴や使い方に関する事項）	国語（情報の扱い方に関する事項）	国語（話すこと・聞くこと）	国語（書くこと）	国語（読むこと）	算数（数と計算）	算数（図形）	算数（測定）	算数（変化と関係）	算数（データの活用）
問題数		4/13	2/13	3/13	2/13	2/13	8/16	4/16	1/16	3/16	4/16
正答率	当別町	**91.6**	**100.8**	**88.6**	**93.7**	**98.6**	**88.5**	**95.8**	**97.7**	**70.3**	**86.6**
	北海道	**98.7**	**97.7**	**97.9**	**94.7**	**98.6**	**95.3**	**93.7**	**97.8**	**92.7**	**93.8**
	全国	**100.0**	**100.0**	**100.0**	**100.0**	**100.0**	**100.0**	**100.0**	**100.0**	**100.0**	**100.0**
無解答率	当別町	**124.8**	**108.3**	**0.0**	**131.7**	**111.6**	**151.4**	**90.8**	**232.4**	**101.9**	**129.6**
	北海道	91.2	75.0	66.7	98.3	94.7	108.2	113.1	111.8	113.6	104.4
	全国	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

（2）中学校（義務教育学校後期課程）

		国語（言葉の特徴や使い方に関する事項）	国語（情報の扱い方に関する事項）	国語（話すこと・聞くこと）	国語（書くこと）	国語（読むこと）	数学（数と式）	数学（図形）	数学（関数）	数学（データの活用）	英語（聞くこと）	英語（読むこと）	英語（話すこと［やり取り］）	英語（話すこと［発表］）	英語（書くこと）
問題数		5/15	1/15	3/15	3/15	3/15	5/16	4/16	3/16	4/16	2/9	2/9	1/9	1/9	3/9
正答率	当別町	**111.3**	**109.5**	**109.4**	**116.8**	**113.7**	**105.2**	**120.5**	**109.9**	**120.0**	**114.8**	**136.0**	**129.6**	**106.2**	**130.3**
	北海道	98.3	98.0	98.7	101.2	98.8	97.6	98.4	92.5	95.9	99.7	98.7	95.5	86.4	89.1
	全国	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
無解答率	当別町	**69.7**	**0.0**	**47.1**	**30.0**	**82.8**	**36.2**	**55.1**	**65.0**	**59.3**	**0.0**	**0.0**	**129.3**	**118.8**	**42.3**
	北海道	101.0	75.0	107.2	105.6	109.3	112.9	112.9	109.3	115.6	100.0	84.6	146.7	142.4	110.4
	全国	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

※教科の領域別に全国を100とした場合の状況を示したもの。
※（当別町児童生徒の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）
※英語は公開問題のうち全員に共通して出題される９問の集計値を掲載
※１つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数と一致しない場合がある。





3　正答率30%以下の児童生徒の割合・ＩＲＴバンドが１の児童生徒の割合

（１）小学校（義務教育学校前期課程）

	国語		算数	
当別町	11.8%		15.6%	
北海道	9.6%		17.9%	
全国	8.7%		15.4%	
正答率30%以下となる正答数	13問中３問以下		16問中４問以下	
全国との差	＋　3.1	多い	＋　0.2	多い

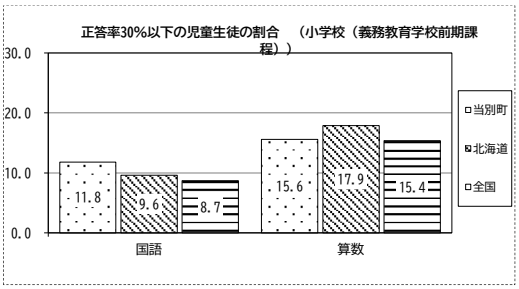
（２）中学校（義務教育学校後期課程）

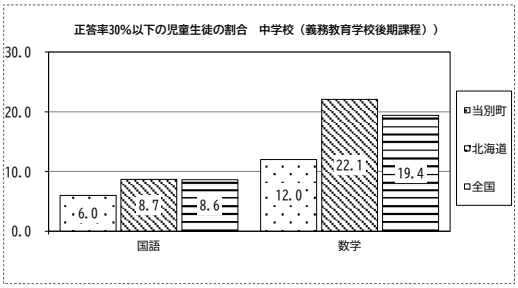
	国語		数学	
当別町	6.0%		12.0%	
北海道	8.7%		22.1%	
全国	8.6%		19.4%	
正答率30%以下となる正答数	15問中４問以下		16問中４問以下	
全国との差	▲　2.6	少ない	▲　7.4	少ない

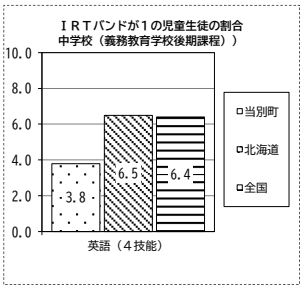
※ＩＲＴバンド…ＩＲＴスコアを１～５の５段階に区切ったもの。３が基準バンドで、５が最も高いバンドである。

【ＩＲＴバンドが１の児童生徒の割合（中学校）】

	英語（４技能）	
当別町	3.8%	
北海道	6.5%	
全国	6.4%	
全国との差	▲　2.6	少ない

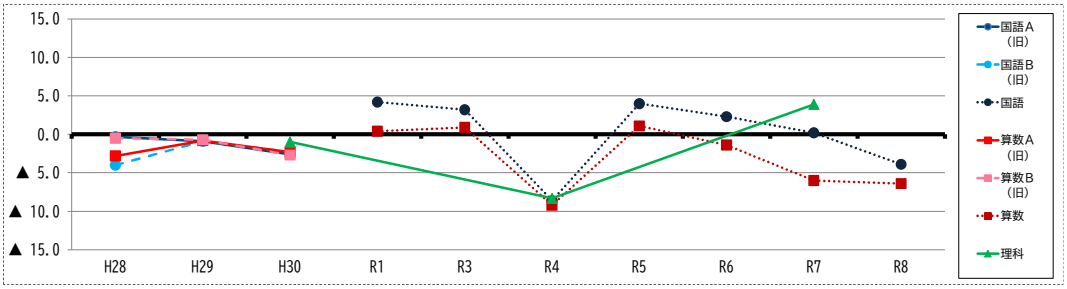




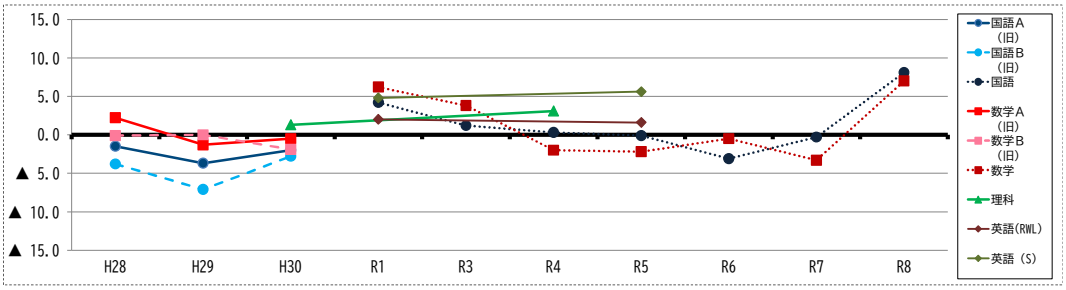


4　経年変化

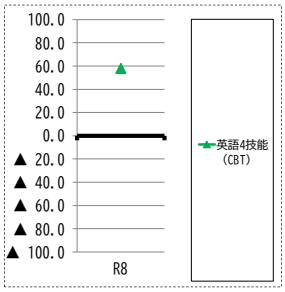
（１）小学校（義務教育学校前期課程）



（２）中学校（義務教育学校後期課程）



（３）中学校（ＣＢＴ調査）



※全国の平均正答率との差を表示。

※理科・英語は３年ごとに実施。

※令和２年度は中止。

※ＣＢＴ調査は得点表示の形式が異なるため、別表で掲載する。

5　結果概要

（１）教科ごとの平均正答率

・中学校国語・中学校数学・中学校英語では、全国平均を上回っています。

・小学校国語では、全国平均を3.9ポイント下回っており、小学校算数で全国平均を6.4ポイント下回っています。

（２）領域ごとの正答率・無解答率

・小学校国語では、正答率が５領域中４領域で全国平均を下回っており、無回答率が５領域中４領域で全国平均を下回っています。

・小学校算数では、正答率が全ての領域で全国平均を下回っており、無解答率が５領域中４領域で全国平均を下回っています。

・中学校国語では、正答率が全ての領域で全国平均を上回っており、無回答率が全ての領域で全国平均を上回っています。

・中学校数学では、正答率が全ての領域で全国平均を上回っており、無回答率が全ての領域で全国平均を上回っています。

・中学校英語では、正答率が全ての領域で全国平均を上回っており、無解答率が５領域中３領域で全国平均を上回っています。

（３）正答率30%以下の児童生徒の割合・ＩＲＴバンドが１の児童生徒の割合

・小学校国語・小学校算数では、全国平均より割合が多くなっています。

・中学校国語・中学校数学・中学校英語では、全国平均より割合が少なくなっています。

（４）経年変化

・小学校国語・小学校算数では、正答率が過去３年と比較して全国平均との差が広がっています。

・中学校国語・中学校数学では、正答率が過去３年間全国平均を下回っていましたが、今年は全国平均をを大きく上回りました。

Ⅲ）学習状況調査（児童生徒質問調査・学校質問調査）の状況

１．基本的生活習慣等に関すること

（１）児童生徒質問調査

①朝食を毎日食べている（「している」「どちらかといえば、している」と回答した割合）

	R８	R７	R６	前年度比	全国平均	全国比
小学校６年生	**95.0%**	91.3%	89.3%	3.7%	93.3%	1.7%
中学校３年生	**92.8%**	83.6%	92.0%	9.2%	90.9%	1.9%

②毎日、同じくらいの時刻に寝ている（「している」「どちらかといえば、している」と回答した割合）

	R８	R７	R６	前年度比	全国平均	全国比
小学校６年生	**82.2%**	76.8%	78.7%	5.4%	82.8%	-0.6%
中学校３年生	**79.5%**	75.4%	84.1%	4.1%	80.5%	-1.0%

③毎日、同じくらいの時刻に起きている（「している」「どちらかといえば、している」と回答した割合）

	R８	R７	R６	前年度比	全国平均	全国比
小学校６年生	**86.1%**	92.7%	93.3%	-6.6%	90.7%	-4.6%
中学校３年生	**90.4%**	93.2%	93.2%	-2.8%	92.4%	-2.0%

④普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、スマートフォン等でSNSや動画視聴などをしますか（「２時間以上」と回答した割合）

	R８	R７	R６	前年度比	全国平均	全国比
小学校６年生	**54.5%**	項目なし	30.7%		57.6%	-3.1%
中学校３年生	**78.3%**	項目なし	64.8%		74.9%	3.4%

（２）学校質問調査

①近視の予防の一環として、学校の休み時間（昼休みを含む）や放課後などの時間（部活動の朝練・放課後練習を含む）に屋外に出ることや、読書や電子機器の使用などの近い所を見る作業に当たっての配慮事項（対象から３０ｃｍ以上目を離す、３０分に１回は目を休めるなど）について指導しているか　（「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合）

	R８	R７	R６	前年度比	全国平均	全国比
小学校	**100.0%**	100.0%	項目なし	0.0%	80.5%	19.5%
中学校	**50.0%**	50.0%	項目なし	0.0%	39.1%	10.9%

（３）傾向と分析

【傾向】

・朝食摂取率は、極めて良好で、小学校・中学校ともに全国平均を上回り、前年度からも大きく改善しています。
・就寝時刻の一定化は、前年より上昇していますが、依然として全国平均をわずかに下回っています。
・起床時刻の一定化は、小学校・中学校ともに過去2年から大きく低下しています。
・スマートフォン等によるSNS・動画視聴時間は、1日2時間以上の割合が中学生で78.3%に達し、全国平均を超えています。
・学校の近視予防に関する指導は、全国平均より高い水準を維持しています。

【分析】

・朝食摂取の習慣化や学校の近視予防指導といった意識的にコントロールできる健康管理は成果を上げています。
・しかし、中学生を中心に夜間のスマートフォン利用が高止まりしていることなどが就寝の質に悪影響を与えており、就寝時刻は整いつつあっても、朝すっきりと決まった時間に起きられない起床時刻の乱れという生活リズムの課題に直結していると考えられます。

【「前年度比」「全国比」の凡例】

○.○%	・・・前年度（全国平均）を上回っている項目
－○.○%	・・・前年度（全国平均）を下回っている項目

２．家庭学習等に関すること

（１）児童生徒質問調査

①学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾、家庭教師に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）（「１時間以上」と回答した割合）

	R８	R７	R６	前年度比	全国平均	全国比
小学校６年生	**36.7%**	46.4%	69.3%	-9.7%	49.9%	-13.2%
中学校３年生	**66.3%**	54.8%	54.5%	11.5%	61.6%	4.7%

②学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を、勉強のために使っていますか　（「１時間以上」と回答した割合）

	R８	R７	R６	前年度比	全国平均	全国比
小学校６年生	**8.9%**	10.1%	37.4%	-1.2%	13.4%	-4.5%
中学校３年生	**9.6%**	19.2%	15.9%	-9.6%	12.0%	-2.4%

③土曜日や日曜日など学校が休みの日に、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾、家庭教師に教わっている時間、インターネットを活用した学ぶ時間も含む）（「２時間以上」と回答した割合）

	R８	R７	R６	前年度比	全国平均	全国比
小学校６年生	**11.4%**	13.0%	18.7%	-1.6%	17.1%	-5.7%
中学校３年生	**26.5%**	23.3%	23.9%	3.2%	29.9%	-3.4%

（２）学校質問調査

①家庭学習の取組として、学校では、児童生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えている（「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合）

	R８	R７	R６	前年度比	全国平均	全国比
小学校	**100.0%**	100.0%	100.0%	0.0%	96.6%	3.4%
中学校	**100.0%**	100.0%	100.0%	0.0%	91.2%	8.8%

②家庭学習について、児童生徒が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行っている（「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合）

	R８	R７	**R６**	前年度比	全国平均	全国比
小学校	**100.0%**	100.0%	**100.0%**	0.0%	91.1%	8.9%
中学校	**100.0%**	100.0%	**100.0%**	0.0%	85.0%	15.0%

③学校では、児童生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童生徒の学習改善に生かしている（「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合）

	R８	R７	R６	前年度比	全国平均	全国比
小学校	**100.0%**	100.0%	100.0%	0.0%	90.5%	9.5%
中学校	**100.0%**	100.0%	100.0%	0.0%	83.2%	16.8%

④児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしているか（「毎日持ち帰って、毎日利用させている」と回答した割合）

	R８	R７	R６	前年度比	全国平均	全国比
小学校	**50.0%**	50.0%	項目なし	0.0%	27.6%	22.4%
中学校	**50.0%**	50.0%	項目なし	0.0%	30.9%	19.1%

（3）傾向と分析

【傾向】

・家庭学習の習慣化は、小学校・中学校ともに全国平均を下回る項目が多く、特に小学校6年生の家庭学習時間が前年度から大幅に減少しており、全国平均とも大きな開きがあります。
・勉強のためのICT機器の家庭利用時間も、小学校・中学校ともに10%未満と低水準で全国平均を下回っています。
・家庭学習の指導・工夫や、持ち帰り利用の環境整備に関する学校の取組率は、全国平均を大きく上回っています。

【分析】

・学校では家庭学習の定着に向けた指導を行っていますが、それが児童生徒の家庭での実際の行動（学習時間の確保）へと結びついていないことが浮き彫りになっています。小学校において特に習慣化の定着が大きな課題となっており、学校の取組内容の見直しや、保護者との密な連携が求められます。

３．ウェルビーイングの向上に関すること（挑戦心、自己有用感、幸福感等）

【ウェルビーイングについて】
●身体的・精神的・社会的に良い状態にあること。短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念である。
●多様な個人がそれぞれ幸せや生きがいを感じるとともに、個人を取り巻く場や地域、社会が幸せや豊かさを感じられる良い状態にあることも含む概念である。

【学校教育におけるウェルビーイング】
●国の次期「教育振興基本計画」のコンセプトの１つとして、「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」が掲げられており、ウェルビーイングに関連する主観的指標として、次の項目が示されている。（参考：中央教育審議会教育振興基本計画部会（第13回）（令和５年２月開催）会議資料「ウェルビーイングの向上について」）
・自分にはよいところがあると思う
・将来の夢や目標を持っている
・先生は自分のよいところを認めてくれる
・困りごとや不安がある時に先生や学校にいる大人にいつでも相談できる
・自分と違う意見について考えるのは楽しい
・友人関係の満足度
・自分の幸福感
・人が困っているときは進んで助けている
・地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う
・学級をよくするために互いの意見の良さを生かして解決方法を決める
・勉強は好きと思う
・授業の内容がよく分かる

（１）児童生徒質問調査

①自分には、よいところがあると思う（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

	R８	R７	R６	前年度比	全国平均	全国比
小学校６年生	**84.8%**	87.0%	77.4%	-2.2%	85.6%	-0.8%
中学校３年生	**88.0%**	84.9%	77.3%	3.1%	84.0%	4.0%

②先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

	R８	R７	R６	前年度比	全国平均	全国比
小学校６年生	**96.2%**	94.2%	88.0%	2.0%	91.4%	4.8%
中学校３年生	**91.6%**	90.4%	94.4%	1.2%	90.9%	0.7%

③将来の夢や目標を持っている（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

	R８	R７	R６	前年度比	全国平均	全国比
小学校６年生	**82.3%**	89.9%	90.6%	-7.6%	81.8%	0.5%
中学校３年生	**66.3%**	68.5%	56.8%	-2.2%	67.6%	-1.3%

④人が困っているときは、進んで助けている（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

	R８	R７	R６	前年度比	全国平均	全国比
小学校６年生	**93.7%**	94.2%	90.6%	-0.5%	92.7%	1.0%
中学校３年生	**89.2%**	91.7%	86.4%	-2.5%	90.8%	-1.6%

⑤いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

	R８	R７	R６	前年度比	全国平均	全国比
小学校６年生	**94.9%**	98.6%	98.7%	-3.7%	96.2%	-1.3%
中学校３年生	**96.4%**	98.6%	97.7%	-2.2%	95.1%	1.3%

⑥困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる
（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

	R８	R７	R６	前年度比	全国平均	全国比
小学校６年生	**70.8%**	59.4%	64.0%	11.4%	70.6%	0.2%
中学校３年生	**66.2%**	74.0%	50.0%	-7.8%	71.9%	-5.7%

⑦学校に行くのは楽しいと思う（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

	R８	R７	R６	前年度比	全国平均	全国比
小学校６年生	**77.2%**	85.5%	88.0%	-8.3%	85.7%	-8.5%
中学校３年生	**79.5%**	76.8%	88.6%	2.7%	85.4%	-5.9%

⑧自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

	R８	R７	R６	前年度比	全国平均	全国比
小学校６年生	**84.8%**	79.7%	88.0%	5.1%	77.9%	6.9%
中学校３年生	**73.5%**	79.5%	71.6%	-6.0%	78.6%	-5.1%

⑨普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいあるか（「よくある」「ときどきある」と回答した割合）

	R８	R７	R６	前年度比	全国平均	全国比
小学校６年生	**97.5%**	91.3%	90.6%	6.2%	92.5%	5.0%
中学校３年生	**88.0%**	94.5%	84.1%	-6.5%	91.0%	-3.0%

⑩友達関係に満足している（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

	R８	R７	R６	前年度比	全国平均	全国比
小学校６年生	**96.2%**	87.0%	84.0%	9.2%	91.1%	5.1%
中学校３年生	**92.8%**	94.5%	86.3%	-1.7%	91.2%	1.6%

⑪地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

	R８	R７	R６	前年度比	全国平均	全国比
小学校６年生	**88.6%**	87.0%	93.3%	1.6%	80.1%	8.5%
中学校３年生	**61.5%**	79.4%	71.6%	-17.9%	72.3%	-10.8%

⑫学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている
（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

	R８	R７	R６	前年度比	全国平均	全国比
小学校６年生	**86.1%**	86.9%	84.0%	-0.8%	81.5%	4.6%
中学校３年生	**81.9%**	87.7%	85.2%	-5.8%	84.5%	-2.6%

⑬国語の勉強は好き（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

	R８	R７	R６	前年度比	全国平均	全国比
小学校６年生	**58.2%**	60.9%	73.4%	-2.7%	57.4%	0.8%
中学校３年生	**66.2%**	60.3%	51.1%	5.9%	57.2%	9.0%

⑭国語の授業の内容はよく分かる（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

	R８	R７	R６	前年度比	全国平均	全国比
小学校６年生	**87.3%**	85.5%	90.7%	1.8%	81.5%	5.8%
中学校３年生	**90.3%**	74.0%	80.7%	16.3%	76.8%	13.5%

⑮算数（数学）の勉強は好き（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

	R８	R７	R６	前年度比	全国平均	全国比
小学校６年生	**59.5%**	60.9%	80.0%	-1.4%	57.6%	1.9%
中学校３年生	**61.4%**	56.2%	40.9%	5.2%	56.1%	5.3%

⑯算数（数学）の授業の内容はよく分かる（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

	R８	R７	R６	前年度比	全国平均	全国比
小学校６年生	**82.3%**	81.2%	85.3%	1.1%	77.5%	4.8%
中学校３年生	**81.9%**	65.7%	68.2%	16.2%	74.2%	7.7%

⑰英語の勉強は好き（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

	R８	R７	R６	前年度比	全国平均	全国比
小学校６年生	**67.1%**	項目なし	項目なし		66.7%	0.4%
中学校３年生	**61.4%**	項目なし	項目なし		51.2%	10.2%

⑱英語の授業の内容はよく分かる（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

	R８	R７	R６	前年度比	全国平均	全国比
小学校６年生	**項目なし**	項目なし	項目なし		46.2%	
中学校３年生	**77.1%**	項目なし	項目なし		64.2%	12.9%

（２）学校質問調査

①教員が学級の問題を抱えている場合、共に問題解決に当たることを行っている

（「週に１回程度、または、それ以上行った」「月に数回程度行った」と回答した割合）

	R８	R７	R６	前年度比	全国平均	全国比
小学校	**100.0%**	100.0%	100.0%	0.0%	89.4%	10.6%
中学校	**100.0%**	100.0%	100.0%	0.0%	79.0%	21.0%

②調査対象学年の児童生徒に対して、学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っている（「よくしている」「どちらかといえば、している」と回答した割合）

	R８	R７	R６	前年度比	全国平均	全国比
小学校	**100.0%**	100.0%	100.0%	0.0%	93.7%	6.3%
中学校	**100.0%**	100.0%	100.0%	0.0%	93.5%	6.5%

③調査対象学年の児童に対して、学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話合いを生かして、一人一人の児童生徒が意思決定できるような指導を行っている（「よくしている」「どちらかといえば、している」と回答した割合）

	R８	R７	R６	前年度比	全国平均	全国比
小学校	**100.0%**	100.0%	100.0%	0.0%	92.7%	7.3%
中学校	**100.0%**	100.0%	100.0%	0.0%	91.9%	8.1%

（３）傾向と分析

【傾向】

・「自分に良いところがある」「先生が認めてくれる」「友達関係の満足度」は、概ね全国平均以上で推移しています。
・困りごとや不安な時に学校の大人に相談できる割合が、小学校では前年より大きく改善したものの、中学校では前年比で大きく低下し全国平均を下回っています。
・「学校に行くのが楽しい」は、小学校・中学校ともに全国平均を下回っています。
・「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う割合は、小学校では全国平均を大きく上回っていますが、中学校では全国平均を大きく下回り、前年比でも大きく低下しています。
・国語や算数（数学）、英語の勉強が好きと回答した割合は、小学校・中学校ともに全国平均以上をキープしています。

【分析】

・「とうべつ未来学」で進めるふるさと教育やキャリア教育の成果として、小学校では地域や社会への貢献意欲が全国平均を大きく上回っていますが、中学校では同項目が前年よりも大きく低下しており、中学生の関心が内向化している実態が新たな課題として浮き彫りになりました。
・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの活用や、心理テスト「WEBQU」などの客観データを生かした組織的解決体制の構築により、かつて課題だった小学校の相談体制は前年よりも大きく改善しましたが、中学校では前年よりも低下し、いつでも大人に相談できる環境の再構築が必要です。
・学校に行くのが楽しいと答える割合は、小学校・中学校ともに全国平均以下で推移しており、心理状態の注視が求められます。
・これまで推進してきた授業改善の取組は着実に実を結んでおり、以前の課題であった中学生の授業内容の理解度は、国語・数学ともに大幅に上昇し、小学校・中学校ともに全国平均を上回る結果となりました。
・今後は学習面での自信や高いICT活用スキルを、学校生活の楽しさや社会性へと結びつけるための取組みが必要です。

４．授業改善等に関すること

（１）児童生徒質問調査

①授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

	R８	R７	R６	前年度比	全国平均	全国比
小学校６年生	**83.5%**	85.5%	90.7%	-2.0%	77.6%	5.9%
中学校３年生	**79.5%**	75.3%	78.4%	4.2%	78.8%	0.7%

②学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができているか

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

	R８	R７	R６	前年度比	全国平均	全国比
小学校６年生	**87.3%**	94.2%	94.6%	-6.9%	85.7%	1.6%
中学校３年生	**83.2%**	87.7%	87.5%	-4.5%	87.0%	-3.8%

③前年度までに受けた授業は、自分にあった考え方、教材、学習時間などになっていたか

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

	R８	R７	R６	前年度比	全国平均	全国比
小学校６年生	**83.5%**	89.8%	86.7%	-6.3%	80.8%	2.7%
中学校３年生	**79.5%**	86.3%	65.9%	-6.8%	78.9%	0.6%

④学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができているか

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

	R８	R７	R６	前年度比	全国平均	全国比
小学校６年生	**77.2%**	85.5%	89.3%	-8.3%	78.4%	-1.2%
中学校３年生	**77.1%**	68.5%	63.7%	8.6%	79.0%	-1.9%

⑤授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいるか

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

	R８	R７	R６	前年度比	全国平均	全国比
小学校６年生	**94.9%**	94.2%	92.0%	0.7%	91.4%	3.5%
中学校３年生	**91.6%**	95.9%	92.1%	-4.3%	92.4%	-0.8%

⑥授業で、ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を、どの程度使用したか（「ほぼ毎日」「週３回以上」と回答した割合）

	R８	R７	R６	前年度比	全国平均	全国比
小学校６年生	**84.8%**	94.2%	86.7%	-9.4%	68.8%	16.0%
中学校３年生	**94.0%**	93.1%	67.0%	0.9%	78.2%	15.8%

（２）学校質問調査

①授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思うか
（「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した割合）

	R８	R７	R６	前年度比	全国平均	全国比
小学校	**100.0%**	100.0%	100.0%	0.0%	88.1%	11.9%
中学校	**100.0%**	100.0%	100.0%	0.0%	97.2%	2.8%

②授業では、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思うか
（「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した割合）

	R８	R７	R６	前年度比	全国平均	全国比
小学校	**100.0%**	100.0%	100.0%	0.0%	78.9%	21.1%
中学校	**100.0%**	100.0%	100.0%	0.0%	81.4%	18.6%

③児童生徒は、学級やグループでの話合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思うか
（「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した割合）

	R８	R７	R６	前年度比	全国平均	全国比
小学校	**100.0%**	100.0%	100.0%	0.0%	87.8%	12.2%
中学校	**100.0%**	100.0%	100.0%	0.0%	89.4%	10.6%

④児童生徒は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組めていると思うか
（「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した割合）

	R８	R７	R６	前年度比	全国平均	全国比
小学校	**100.0%**	100.0%	100.0%	0.0%	93.2%	6.8%
中学校	**100.0%**	100.0%	100.0%	0.0%	94.9%	5.1%

⑤学習指導において、児童生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、
協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫している（「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合）

	R８	R７	R６	前年度比	全国平均	全国比
小学校	**100.0%**	100.0%	100.0%	0.0%	95.2%	4.8%
中学校	**100.0%**	100.0%	100.0%	0.0%	94.6%	5.4%

⑥授業では、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたか
（「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合）

	R８	R７	R６	前年度比	全国平均	全国比
小学校	**100.0%**	100.0%	100.0%	0.0%	89.5%	10.5%
中学校	**100.0%**	100.0%	100.0%	0.0%	85.4%	14.6%

⑦児童生徒一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を、授業でどの程度活用したか
（「ほぼ毎日」「週３回以上」と回答した割合）

	R８	R７	R６	前年度比	全国平均	全国比
小学校	**100.0%**	100.0%	100.0%	0.0%	82.8%	17.2%
中学校	**100.0%**	100.0%	100.0%	0.0%	82.3%	17.7%

⑧児童生徒同士がやり取りする場面では、児童生徒一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器をどの程度使用させているか
（「ほぼ毎日」「週３回以上」と回答した割合）

	R８	R７	R６	前年度比	全国平均	全国比
小学校	**100.0%**	100.0%	項目なし	0.0%	58.0%	42.0%
中学校	**100.0%**	50.0%	項目なし	50.0%	53.8%	46.2%

（3）傾向と分析

【傾向】

・「主体的な学び」「対話的な学び」に関する項目において、小学校は全ての項目で全国平均を上回っており、中学校でも多くの項目で全国平均以上となっています。
・授業は自分にあった考え方、教材、学習時間になっていたかについては、前年より低下していますが、全国平均を上回っています。
・授業でのICT機器の活用頻度は、全国平均を大きく上回っています。

【分析】

・「主体的・対話的で深い学び」を目指した長年の授業改善の取組が学校現場に深く定着しており、これが小学校・中学校ともに「授業が好き」「内容がよく分かる」という高い学習モチベーションや学力向上へ好影響を与えていると言えます。

・特にICTの利活用に関する設問は、全国平均を大きく上回る結果となっており、1人1台端末の導入以降、研修の充実やICTを活用した授業改善を重ねてきた取組みが、今回の調査結果に結びついたと見られます。

令和９年度　当別町学力向上プラン

未来を拓く9年間
当別町小中一貫教育

●当別町の学力の状況

（令和８年度「全国学力・学習状況調査」平均正答率　※中学校英語は平均ＩＲＴスコア）

.	国語	算数／数学	英語（４技能）
小学校	57.0%	50.0%	
中学校	72.0%（全国平均以上）	64.0%（全国平均以上）	559（全国平均以上）

成果

●中学校全教科で全国平均を上回っている

（中学校国語：+8.1%、中学校数学：+7.0%、中学校英語：+60【全国平均比】）

●授業内容の理解度が大幅に向上している

（中学生国語の授業内容の理解度は+13.5%、数学の授業内容の理解度は+7.7% 、英語の授業内容の理解度は+12.9%【全国平均比】）

（小学校国語の授業内容の理解度は+5.8%、算数の授業内容の理解度は+4.8%【全国平均比】）

●朝食摂取習慣が定着している

（朝食を毎日食べている児童生徒の割合が、小学校で+1.7%、中学校で+1.9%【全国平均比】）

●小学校の相談体制が改善している

（困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる小学校の割合が、令和7年度59.4%から令和8年度70.8%へと+11.4%改善し、全国平均とほぼ同等）

●小学校での社会貢献意欲が高い傾向にある

（地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う小学生の割合が+8.5%【全国平均比】）

課題

●小学校の学力が全国平均を下回っている

（小学校国語：－3.9%、小学校算数－6.4%【全国平均比】）

●起床時刻の定着に課題がある

（毎日同じくらいの時刻に起きている小学生の割合が-4.6%、中学生が-2.0%【全国平均比】）

●中学生のスマートフォン利用時間が多い傾向にある

（1日2時間以上スマートフォンでSNS・動画視聴をする中学生の割合が+3.4%【全国平均比】）

●中学校での相談体制に課題がある

（困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる中学校の割合が、令和7年度74.0%から令和8年度66.2%へと-7.8%低下し、全国平均を-5.7%下回った）

●中学生の社会貢献意欲に課題がある

（地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う中学生の割合が、令和7年度79.4%から令和8年度61.5%へと－17.9%低下し、全国平均を-10.8%下回った）

課題へのアプローチ

●小中一貫教育を活かした9年間の学びの連続性による学力向上

中学校では全教科で全国平均を上回る成果を達成しており、これは「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善の取り組みが定着しているためである。小中一貫教育の取り組みの深化により、この成果を小学校へ浸透させ、学力向上につなげます。

●授業改善の推進による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

児童生徒が自ら問いを持ち、個別に考え、他者と協働して考えを深める授業改善を推進します。ICT機器を活用し、学習過程を記録・共有することで、「何ができるようになったか」を児童生徒が自覚できる授業へ転換し、知識・技能の確実な習得と思考力・判断力・表現力を一体的に育成します。

令和９年度目　標

●「全国学力・学習状況調査」全教科の平均正答率について**「全国平均を上回る」**ことを目標とする。

●最も低い学力層（５段階で１）の児童生徒の割合を**「全国平均以下にする」**ことを目標とする。